

Deloitte.

デロイト トーマツ



レジリエンス経営を支えるビジネスプラットフォームとは

全3回 統合版

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社



MAKING AN
IMPACT THAT
MATTERS

since 1845

目次

デジタル変革時代に求められるビジネスプラットフォーム p3

事業変化に貢献するキーテクノロジー：デジタルツイン p7

デジタル変革に向けたアプローチ p12

オフリング紹介 p18

デジタル変革時代に求められるビジネスプラットフォーム レジリエンス経営を支えるビジネスプラットフォームとは < 第1回 >

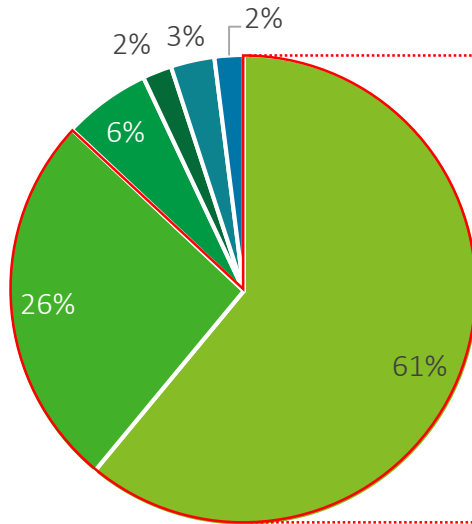
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により、企業は今まで以上にレジリエントな経営が求められる。ビジネスにおいて複数のシナリオを想定・シミュレーションし、どのシナリオにも対応できる柔軟な構えを可能にするデジタルビジネスプラットフォームが企業に必要とされている

COVID-19を経験し、9割近くの企業がDX推進を加速させる必要があると捉えている

大企業のDX推進の必要度と推進状況

Q.「貴社ではDXをどのように捉えていますか？」

N=271

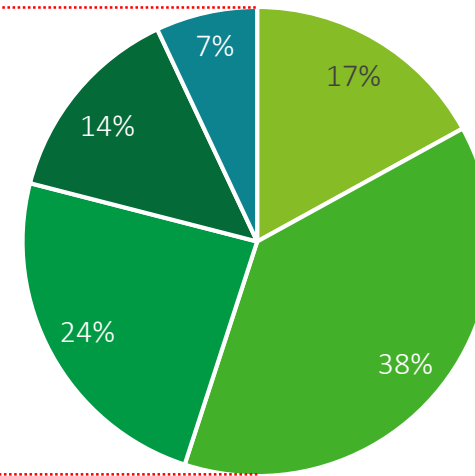


- DX推進を大幅に加速させる必要がある
- DX推進をやや加速させる必要がある
- DX推進をこのままのペースで行う必要がある
- DX推進は十分に進んでいる
- DX推進ニーズはほとんど感じられない
- わからない

Q.「現状、貴社のDX推進状況を評価するとどの程度ですか？」

N=242 ※

※左記設問にて、「DX推進を大幅に加速させる必要がある」または「DX推進をやや加速させる必要がある」と回答した242名



- 計画通りに進んでいる
- 計画よりやや遅れている・少し課題がある
- 計画の半分未満しか進んでいない・かなり課題がある
- 必要性は感じられるが、変革に向けた計画が立っていない
- わからない

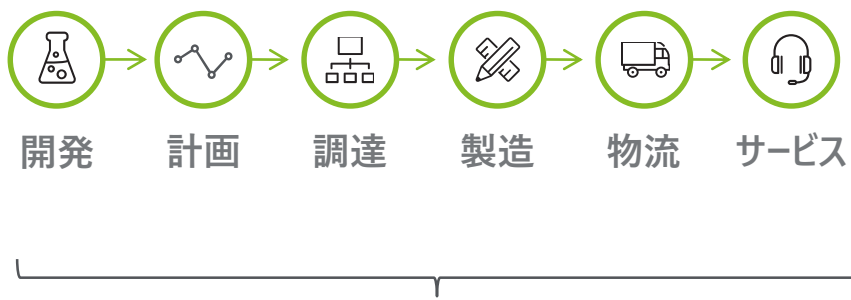
出所：デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社実施したスタートアップ・大企業へのDX調査を基に作成

デジタル化に取り組む先進的な企業では、デジタルコアを軸としたビジネスプラットフォームにより事業変化への迅速かつ柔軟な対応を可能にしている

従来型／デジタルビジネスプラットフォーム

従来型ビジネスプラットフォーム

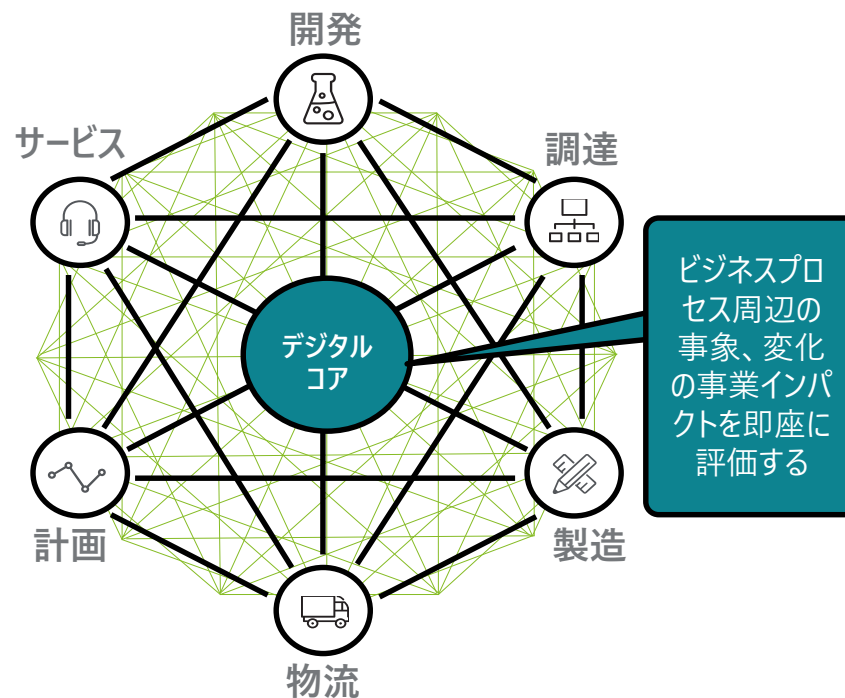
バリューチェーン上の前工程の情報に依存するため、全体最適観点の柔軟な取組や計画の策定が困難



各工程の利害関係者は他プロセスをほとんど把握していないことが多く、外部の状況変化に合わせた対応や調整が困難

デジタルビジネスプラットフォーム

各ビジネスプロセスが互いにデータ連携をしているため、社内及び社外と連携した柔軟な対応やリスク分散が可能



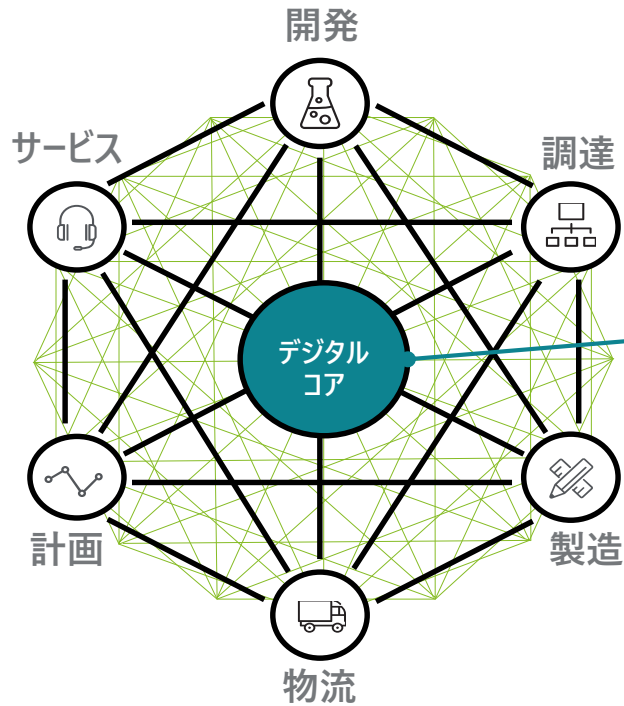
ビジネスプロセス周辺の事象、変化の事業インパクトを即座に評価する

デジタルコアを介して全プロセスを相互接続することで、従来型で見られていた遅延、リスク、無駄を最小化

デジタルコアはデータの収集・可視化やインサイト創出の機能を備え、全体最適な意思決定を可能にする

デジタルビジネスプラットフォームを支えるデジタルコア

デジタルビジネスプラットフォーム



“デジタルコア”の機能

各機能の概要

インサイト創出

シミュレーションや過去情報の蓄積・学習によりビジネス上の課題・リスクを検知・予測する

シミュレーション

社内外で生じる環境変化がもたらすビジネスインパクトやリスク評価のためのシミュレーションやシナリオ分析により意思決定をサポートする

データ統合

必要なデータを保管するとともに活用可能な状態にするための統合・整形、および保管

データ収集

工場、倉庫などの製造や在庫に関する現場のデータ、およびERPなどコアシステムにおけるビジネスデータの収集と一時保管

外部接続性

各ビジネス機能だけでなく、その先に存在する顧客や製品、サプライヤーなどとも接続性を有する

事業変化に貢献するキーテクノロジー「デジタルツイン」 レジリエンス経営を支えるビジネスプラットフォームとは < 第2回 >

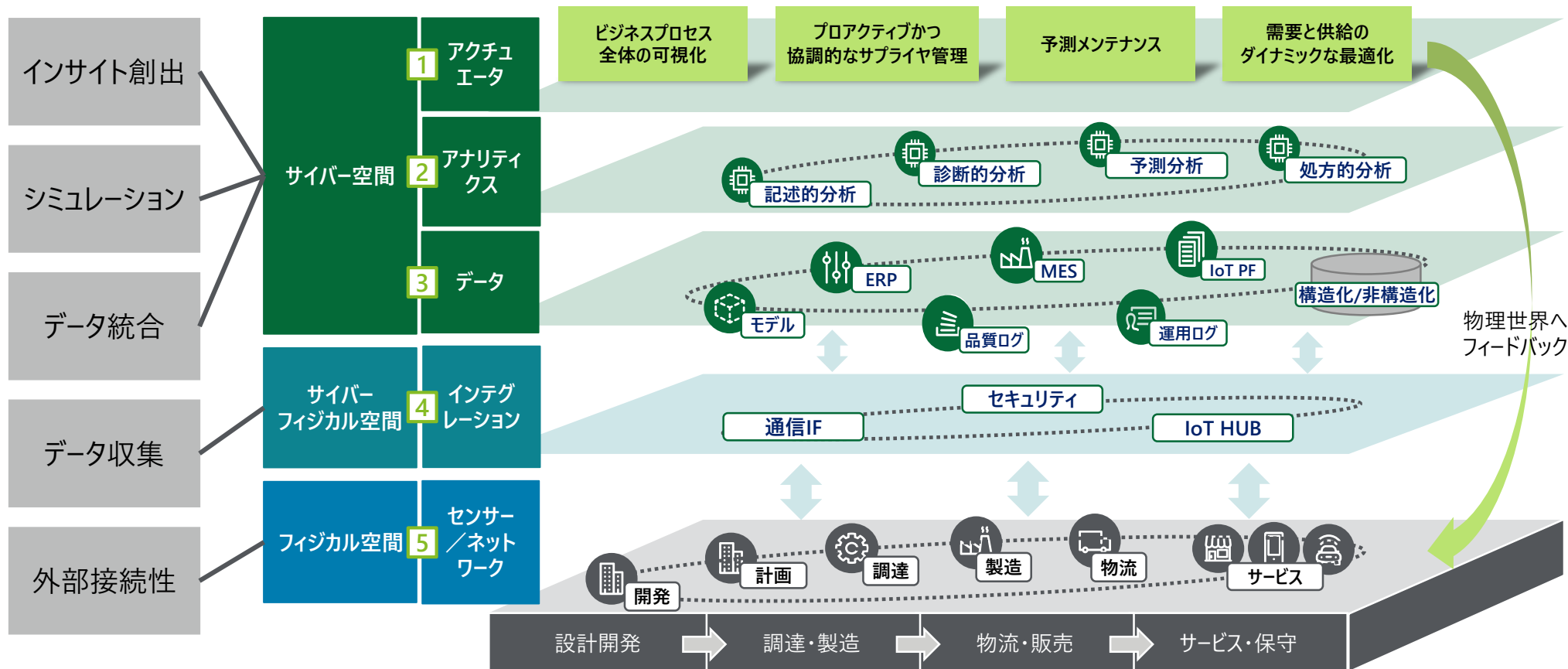
ビジネスに柔軟性や即時性をもたらし、環境変化への対応力を高められる「デジタルツイン」について、具体的な適用領域の事例を示しながら詳述する

デジタルツインは、デジタルコアの全ての機能を有機的に結合し、様々なビジネスシナリオ（リアル空間）をデジタル空間に再現可能とする技術である

デジタルコアを有効化するためのデジタルツインの機能レイヤー

“デジタルコア”の機能

デジタルツインの実現レイヤー



デジタルツインの本質は、デジタル空間上に「もの・サービス」「プロセス」「人」などを再現し、ナレッジやノウハウを用いて新たな価値を創出することにある

デジタルツインの適用領域

デジタルツインの主な適用領域

実現内容の例

Design twin (もの・サービス)	<ul style="list-style-type: none">• 新製品の効率的な設計や予測メンテナンス	<ul style="list-style-type: none">✓ 仮想と現実とを結び付け、製品がさまざまな条件下でどのように動作するかを仮想空間にて検証。複数のプロトタイプの実験の必要性がなくなり開発時間が短縮され、かつ製品の品質を向上✓ 製品の使用環境や運用ログを把握し、利用状況に応じて予測モデルに基づくメンテナンス計画を提案
Process twin (プロセス)	<ul style="list-style-type: none">• 製造と生産計画• 意思決定支援	<ul style="list-style-type: none">✓ プロセス全体の状態をリアルタイムで可視化✓ さまざまな条件下で効率性を維持するための生産方法を見つけることで、スループットを最大化✓ リアルタイムでKPIに基づく、洞察・意思決定を支援
Human twin (ヒト)	<ul style="list-style-type: none">• 人体の仕組み解明• 疾患の早期検知、予防	<ul style="list-style-type: none">✓ 膨大な量のデータと高度な数学的モデルを用いた、人体のメカニズム（例えば、細胞が組織に成長する仕組み）の解明✓ 心臓のデジタルモデルと、一般の人々の心臓の状態を比較することによる、将来的な健康状態の予測

あるタイヤメーカーでは、デジタルツインを活用し、タイヤのトラブルをいち早く検出、予測するサービスの展開によりモノ売りビジネスからの転換を図っている

もの・サービスのデジタルツイン

使用例

国内のあるタイヤメーカーは「タイヤ・アズ・ア・サービス」を目標に掲げ、デジタルツインを開発中
クラウド型情報処理エンジン、センサーによりタイヤの空気圧、温度をリアルタイムで遠隔監視し、タイヤのトラブルをいち早く検出、予測するサービスの展開により従来のモノ売りビジネスからの転換を図っている

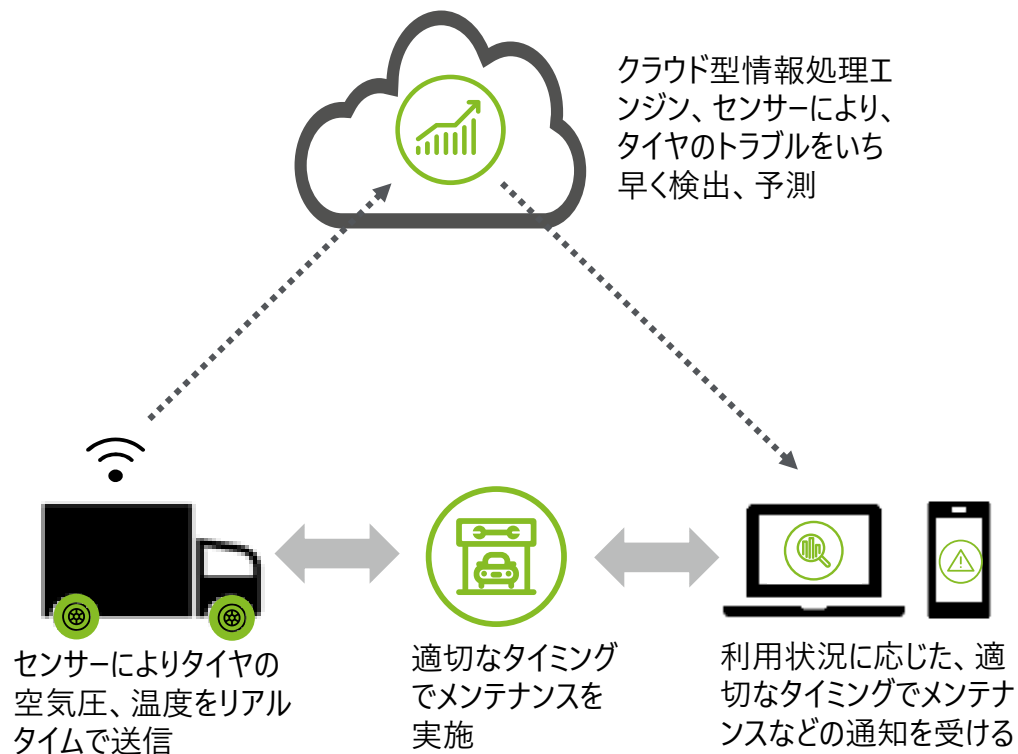
動作の仕組み

- タイヤの性能に関するフィジカル空間からのデータを収集する
- 収集したタイヤのトラブルに関するデータと突き合わせてデジタルシミュレーションとアナリティクスを適用する
- タイヤのトラブルをいち早く検出、予測するモデルを作成する
- センサーによりタイヤの空気圧、温度をリアルタイムで遠隔監視する
- 検出・予測モデルによって、タイヤのトラブルの疑いがある場合に通知する

主なメリット

- タイヤの長寿命化
- モノ売りビジネスからの転換

国内のあるタイヤメーカーにおけるデジタルツイン適用図



ある工業メーカーは、製品の品質とメンテナンスのダウンタイムを改善するため、デジタルツインを利用してビジネスプロセス全体のリアルタイム可視性を高めた

プロセスのデジタルツイン

使用例

ある工業メーカーは、製品の品質とメンテナンスのダウンタイムを改善するために、デジタルツインアプローチを利用して、アイデア開発から顧客使用までの可視性を高めたいと考えていました。

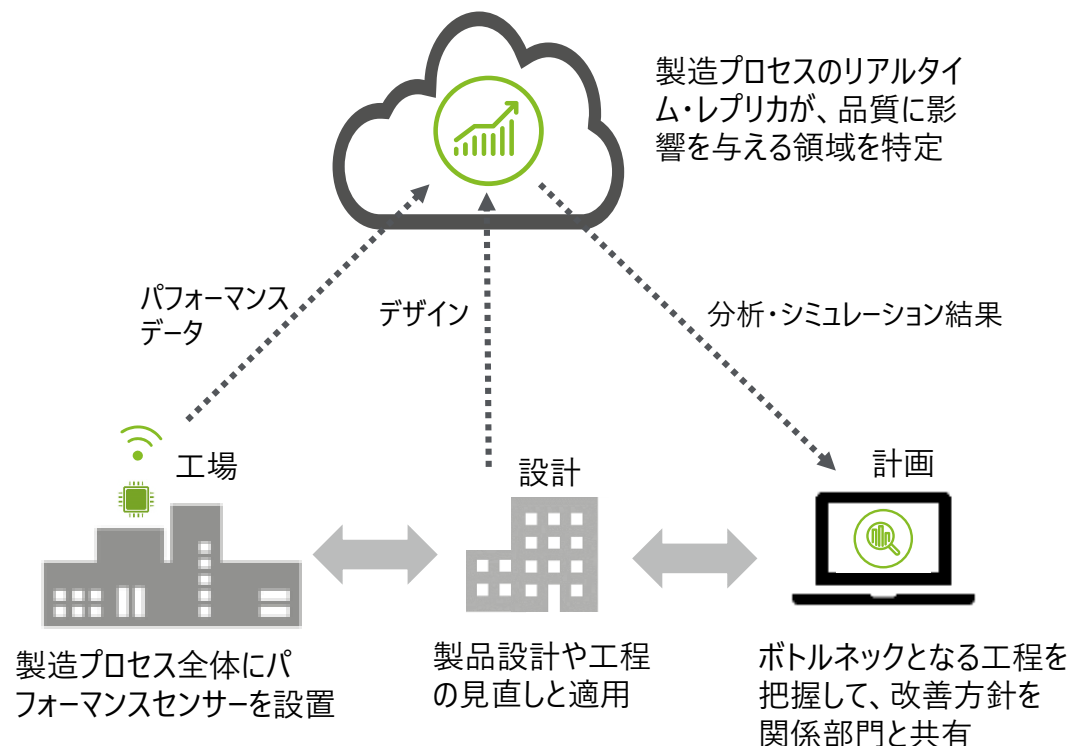
動作の仕組み

- 非効率性を特定し、製品開発を改善するための洞察を可能にするために、製造プロセス全体にパフォーマンスセンサーを設置
- Digital Twinは、各物理開発プロセスのレプリケート・モデルを作成して、KPIを分析し、品質に影響を与える領域を特定する
- 改善されたエンド・ツー・エンドのインサイトとアセンブリにより、サプライチェーンチームは再作業を15~20%削減しながら、アフターサービスを向上させることができた

主なメリット

- エンド・ツー・エンドの製品開発の強化
- 製造プロセスのリアルタイム・レプリカ
- スループットが向上し、収益の増加を促進

製造プロセスにおけるデジタルツイン適用図



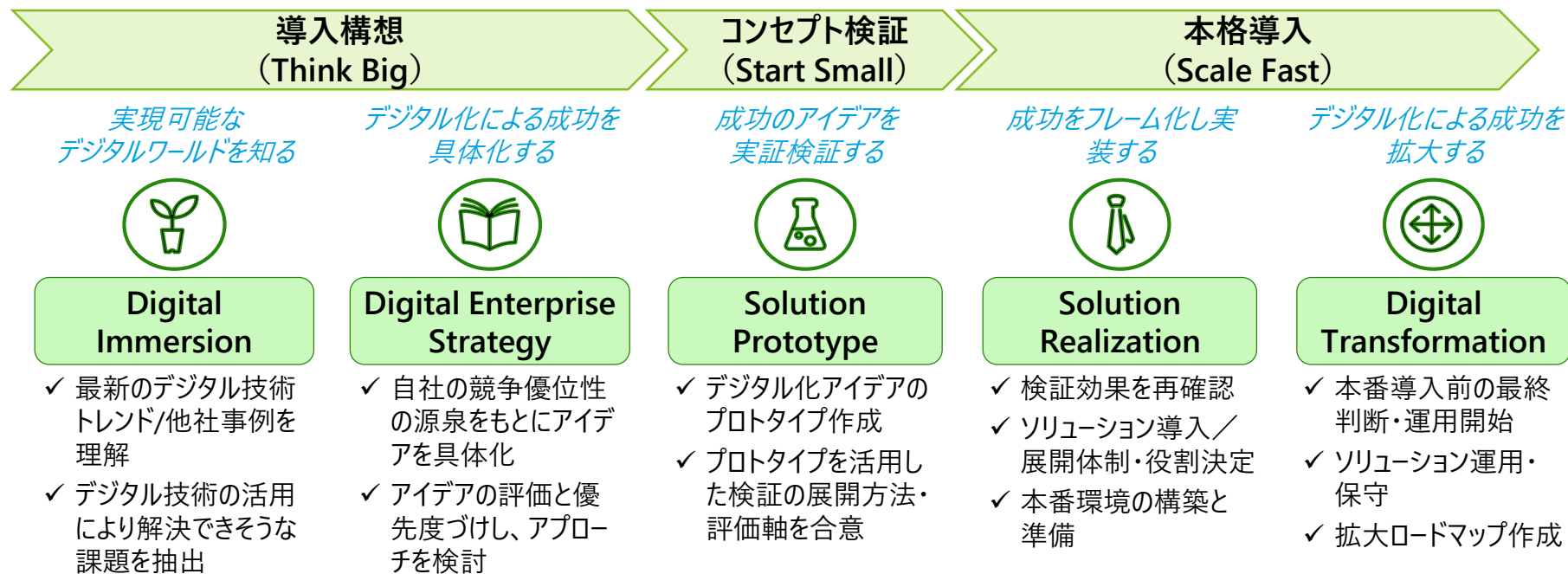
デジタルツインの実現アプローチ

レジリエンス経営を支えるビジネスプラットフォームとは < 第3回 >

ビジネスに柔軟性や即時性などをもたらす「デジタルツイン」をどのように実現するのか、導入アプローチや注意すべきポイントを示しながら詳述する

Think Big／Start Small／Scale Fastの推進アプローチが、デジタルツイン導入を成功に導くベストプラクティスである

デジタルツイン導入アプローチ



主な考慮事項

- デジタルツインにより解消すべき課題の特定
- 実現アーキテクチャの整理（エッジ、クラウドの役割の明確化）
- 外部パートナー（PaaS/SaaS等）の活用検討

- ユースケースのデジタルツインモデルが実行可能な最小限のデータ特定・収集
- 検証の評価軸、展開方法の整理

- 他領域への展開・活用に向けたコンセプト検証で得たナレッジや知見の整理
- 本格展開に向けた体制・役割の明確化と推進チームの立ち上げ

デジタルツインの導入検討においては、デジタルツインを設計および実装する前に、その目的を念頭に置くことが重要となる

デジタルツインの各実現レイヤーにおける考慮事項

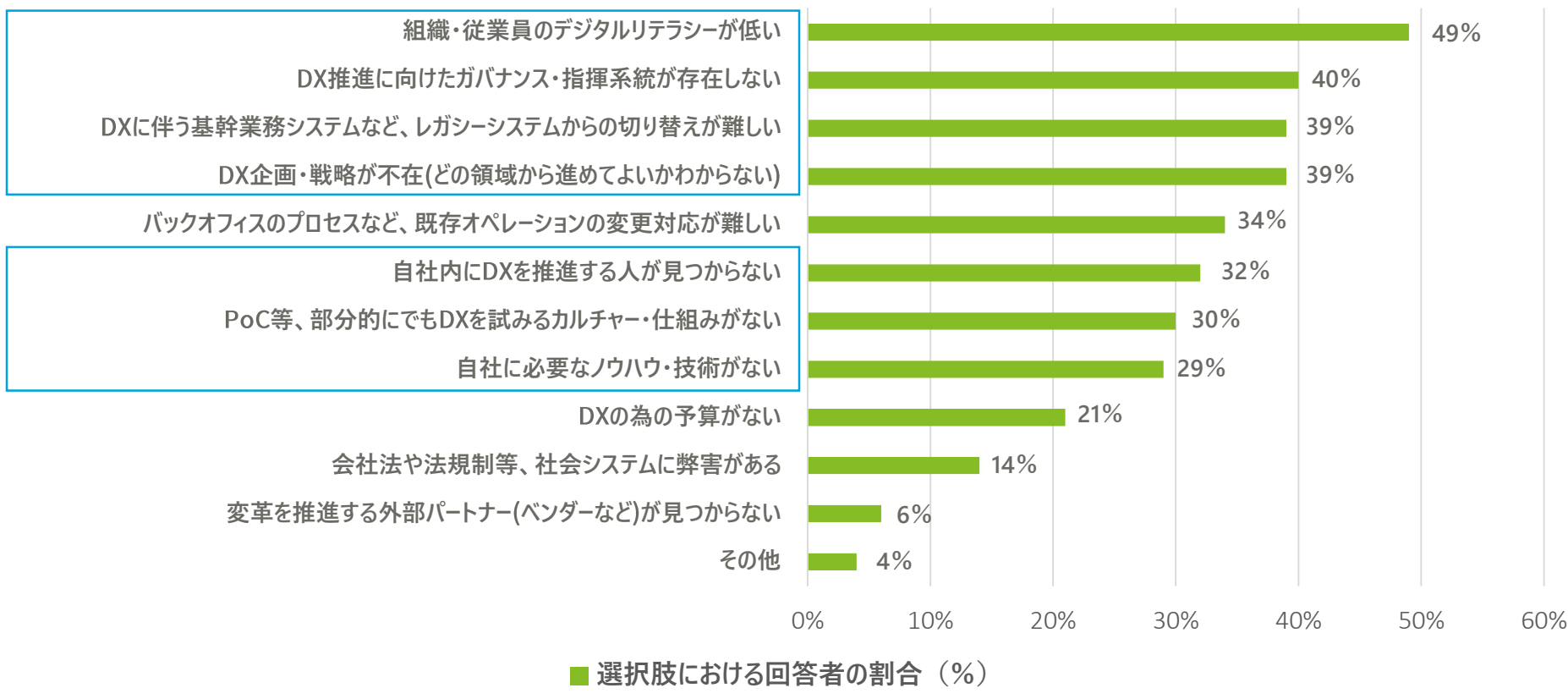
分類		考慮事項
ビジネス要件 (目的)		<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタルツインを活用してビジネス上のどのような課題解消や恩恵を期待するか ■ デジタルツインの適用先はどこか
サイバー空間	1 アクチュエータ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネス部門、データサイエンティスト、運用技術スタッフ間のコラボレーション ■ アナリティクスの結果をメンテナンスなどのアクションにつなげるプロセス及びシステム
	2 アナリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 統計モデルや幾何学モデルが解析やシミュレーションにどのように影響するかを理解する ■ 行動分析に影響を与える項目を明確に理解する ■ 最小限のデータと労力で望ましい結果を生み出す「適切なサイジング」モデル
	3 データ	<ul style="list-style-type: none"> ■ シンプルな「Quick Win」デジタルツインデザインを実行してから、段階的に強化する ■ 保守可能な「適切なサイズ」のデジタルツインソフトウェアコンポーネントの設計 ■ 統合戦略、デジタルツイン統合をサポートするツールを更新する
サイバー フィジカル空間	4 インテグレーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ 意思決定に本当に必要なデータを正しく予測する ■ メタデータとEAMやBIMなどのアプリケーションデータとのタイムリーな同期 ■ メタデータを最新に保つための実行可能なアプローチ
フィジカル空間	5 センサー／ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ■ 古い産業機器と接続するための事前に構築されたアダプタとプロトコル ■ 新しいセンサーを使用して機器と操作の重要な側面を監視する

日本の大企業はデジタル変革の推進において、組織・人材面に課題を抱えていると感じている

DX推進における課題

Q.「DX推進について、課題と感じる事項には何がありますか？（複数選択可）」

N=271



出所：デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社が実施したスタートアップ・大企業へのDX調査を基に作成

デジタル変革を成功に導くためには、組織・人材面の改革も必要となる

組織・人材面の改革に必要な5要素

要素	アクション
1 デジタル人材およびリーダーの育成	デジタルリーダーシップのスキルとそれを保持する人材を社内に蓄える → デジタル人材を社内外から調達し、企業の将来をリードする優れたデジタルリーダーを開発する → 既存の従業員に対して、デジタル知識を増やすための教育をする
2 イノベティブな文化の醸成	顧客志向で期待される成果に焦点を当てた「迅速な成功」アプローチを採用する → 顧客(利用者)からのフィードバックサイクルを確立して取組を磨く環境を整える 例) アジャイル型組織の導入・実践
3 部門横断的なコラボレーション	従来のサイロ状態を解消し、部門を超えた協働関係・体制を構築する → 組織の継続的な変革を支援するチームを部門横断で立ち上げ 例) ビジネス担当、データ活用推進担当、データマネジメント担当など混成チームの組成
4 強固なデジタルエコシステムの形成	外部協創・アライアンスにより企業・産業間の壁を越えた価値を創出 → コア/ノンコア領域を明確にし、すべてを自社で対応しようとするしない → パートナー(スタートアップ、テック企業、デザイナー、研究組織など)を活用
5 バランスの取れたデジタルポートフォリオ	デジタル案件に優先順位を付け、デジタルポートフォリオを管理する方法を理解する → 事業の継続性を最優先としつつ、新たな価値を創出するデジタル変革に関連する案件を管理(推進状況・投資効果)し、経営資源を最適に配分

参考) デロイトは、デジタルツインに関するリサーチ・戦略策定等のプロジェクト実績・知見を有している

デロイトにおけるデジタルツイン関連プロジェクト事例

プロジェクト名	業界	プロジェクト種類	プロジェクト概要
デジタル化構想策定	食品	戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化を進めるための社内環境づくりを目的とし、ドローンのリアルタイム空撮動画や、工場の稼働状況をVR上に反映するデジタルツイン施策を策定
電力流通設備のデジタルツインに関する調査	電力	リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツインの基本概念・進展ステップと代表的な事例を調査
ベンチマーク対象企業調査	重工業	リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> 新製品導入プロセス期間短縮に向けたベンチマーク対象企業のデジタルスレッド、デジタルツイン等の活用事例を調査
デジタルトランスフォーメーション構想策定	精密化学メーカー	戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> AR, RPA, デジタルツイン等のテクノロジー活用を想定したデジタル化構想策定を支援
EPC業界における先進活用の動向調査	建設	リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> EPC業界においてデジタルツイン化を推し進める国内外のプレイヤーの動向調査を実施
Demand & Supply Synchronization	製造	実行支援	<ul style="list-style-type: none"> デジタルツインの活用を通じた、生産設備と生産プロセスにおける生産キャパシティ・コスト等の予測を支援
FutureScape	官公庁	実行支援	<ul style="list-style-type: none"> 都市全体や産業インフラなどの大規模システムのデジタルレプリカを作成し、デジタルツイン内でシミュレーション等を実行可能なアセットの開発および導入
Digital Twins to Solve the Last Mile for eCommerce	Eコマース	リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> Eコマース事業におけるデジタルツイン活用の可能性を調査

オファリング紹介

デロイトは、グローバルで共通の卓越したテクノロジーコンサルティングサービスを、戦略から実行、運用まで、クライアント企業の要件に合わせて提供する

Our Technology Services

Technology Strategy & Transformation

TS&T領域に精通したグローバル25以上のメンバーファームに所属する3,000人以上のプロフェッショナルスタッフが、企業のテクノロジー戦略の立案から、その効果的な実行に至るまでを支援します。

SAP

グローバルで16,000人以上のSAP専門コンサルタントを擁し、1,250以上のクライアントにサービスを提供しています。難易度の高いグローバルレベルでの改革プロジェクトを成功に導いてきた実績が私たちの強みです。デロイトトーマツは数々のSAPアワードを受賞しています。

Oracle

グローバルで20,000人の専門コンサルタントを擁し、幅広いOracleソリューションの導入を支援します。グローバルデリバリーセンター、各種フレームワーク、リソース管理、アプリケーション管理サービスなど、グローバルで実績豊富なモデルをフル活用します。デロイトトーマツは20年以上もの間、Oracle社のダイヤモンドパートナーです。

Analytics and Cognitive

お客様の多種多様なデータを管理し、それらを価値ある情報へ転換するための戦略策定から、テクノロジー導入に至るまでご支援します。

System Engineering

システムインテグレーション専門コンサルタントが、テクノロジー特有の複雑性や、大規模なテクノロジー導入で発生するビジネス上の課題の解決を支援します。

Cloud Engineering

クラウドに関する経験豊富なコンサルタントが、オンプレミスからクラウドに向かうジャーニーのプランニングから実行、オペレーションや、既存環境との統合も含めて支援します。

Managed Application Services (AMS)

ERPソフトウェア、レガシーシステム、ポータルやミドルウェアなど、お客様のアプリケーションやテクノロジーインフラの保守サービスを提供しています。従来のAMSモデルの枠を超え、お客様のビジネスの最適化やイノベーションの実現を支援します。

Deloitte Digital

デジタル化戦略策定からコミュニケーションデザイン、先端ITの導入支援までをカバーします。多岐に渡るデジタル化のトピックにDeloitte Digitalはスペシャリストの集団としてグローバルの力を集結してお応えします。

TS&T領域では、トラディショナルなコンサルティングをベースとしつつ、デジタル変革など技術変化の視点を加えた、高付加価値なサービスを提供する

TS&T領域におけるサービスオファリング



Technology Strategy, Vision & Architecture

ビジネス価値創造に貢献するIT/クラウド戦略の立案とデジタルエンタープライズアーキテクチャへのトランスフォーメーションを支援します

- ✓ IT戦略・ビジョニング
- ✓ エンタープライズアーキテクチャ構想
- ✓ クラウド戦略
- ✓ レガシーモダライゼーション構想
- ✓ ITインフラ診断・最適化
- ✓ 最新テクノロジー活用戦略



Business of Technology Transformation

デジタル変革に必要なIT組織をデザインし、ビジネス価値最大化に向けたIT投資管理を実現します

- ✓ IT組織デザイン・ケパビリティ診断
- ✓ クラウドオペレーション/ガバナンス
- ✓ IT 投資コストマネジメント
- ✓ IT コスト最適化
- ✓ エコシステム & アライアンス戦略



ServiceNow

ServiceNowの知見とビジネスの専門知識を組み合わせ、企業サービスマネジメントの高度化を実現します

- ✓ ServiceNow 導入アドバイザー
- ✓ IT サービスマネジメント
- ✓ IT アセットマネジメント
- ✓ プロジェクトポートフォリオ
- ✓ HR・セキュリティ管理



Enterprise Agility Advisory

迅速かつ柔軟な経営ヘシフトするために、組織、テクノロジー、マインドセットなど、様々な面で変革を支援します

- ✓ Agile 成熟度診断
- ✓ Agile 組織・オペレーションモデル
- ✓ チェンジマネジメント



Emerging Technologies

新規事業開発、およびIoTを含む先進テクノロジーを活用した戦略立案、改革シナリオを支援します

- ✓ リーン事業開発
- ✓ IoT 戦略
- ✓ IoT アーキテクチャプランニング



CIO Program

CIOのパートナーとして戦略策定を支援します

- ✓ CIO トランジションラボ
- ✓ CIO サーベイ

IoT活用による価値創出に向けて戦略立案から運用・サポート支援まで幅広く深いサービスを提供する

IoT領域のサービス

戦略立案・変革支援



- 戦略評価
- プロセス機会の特定と評価
- 組織設計
- 技術評価
- アーキテクチャ評価
- ネットワーク・インフラストラクチャ評価
- ROI評価とビジネスケース作成

プロトタイプ・設計支援



- プロトタイプ作成と「価値の証明 (PoV)」
- アジャイル・デジタルソリューション設計
- MVPプロトタイプテスト
- ネットワーク・アーキテクチャ設計

実装・テスト支援



- ソフトウェアプラットフォームの実装及びテストサービス
- 分析サービス
- データ管理サービス
- セキュリティ評価と認証サービス
- ID及びアクセス管理
- デバイス認証
- 技術統合開発

運用・サポート支援



- ネットワーク・インフラストラクチャ監視サービス
- IoT管理サービス
- ホステッドIoTアプリケーション
- フィールド運用サービス
- IoTソリューション向けリモート監視及び診断管理サービス
- スタッフ増強サービス
- ビジネスプロセスとアーキテクチャの再設計

クロスライフサイクルサービス

- ビジネス・プロセス変更管理
- サイバーセキュリティ
- アジャイルによるプロジェクト管理
- バリュー・キャプチャ・レポートとダッシュボード

企業／事業のAs-IsとTo-Beの2地点間の道筋をIoT戦略として策定すると共に、戦略に基づく必要なアクションの実行を支援する

IoT戦略立案・変革支援のアプローチ



戦略立案

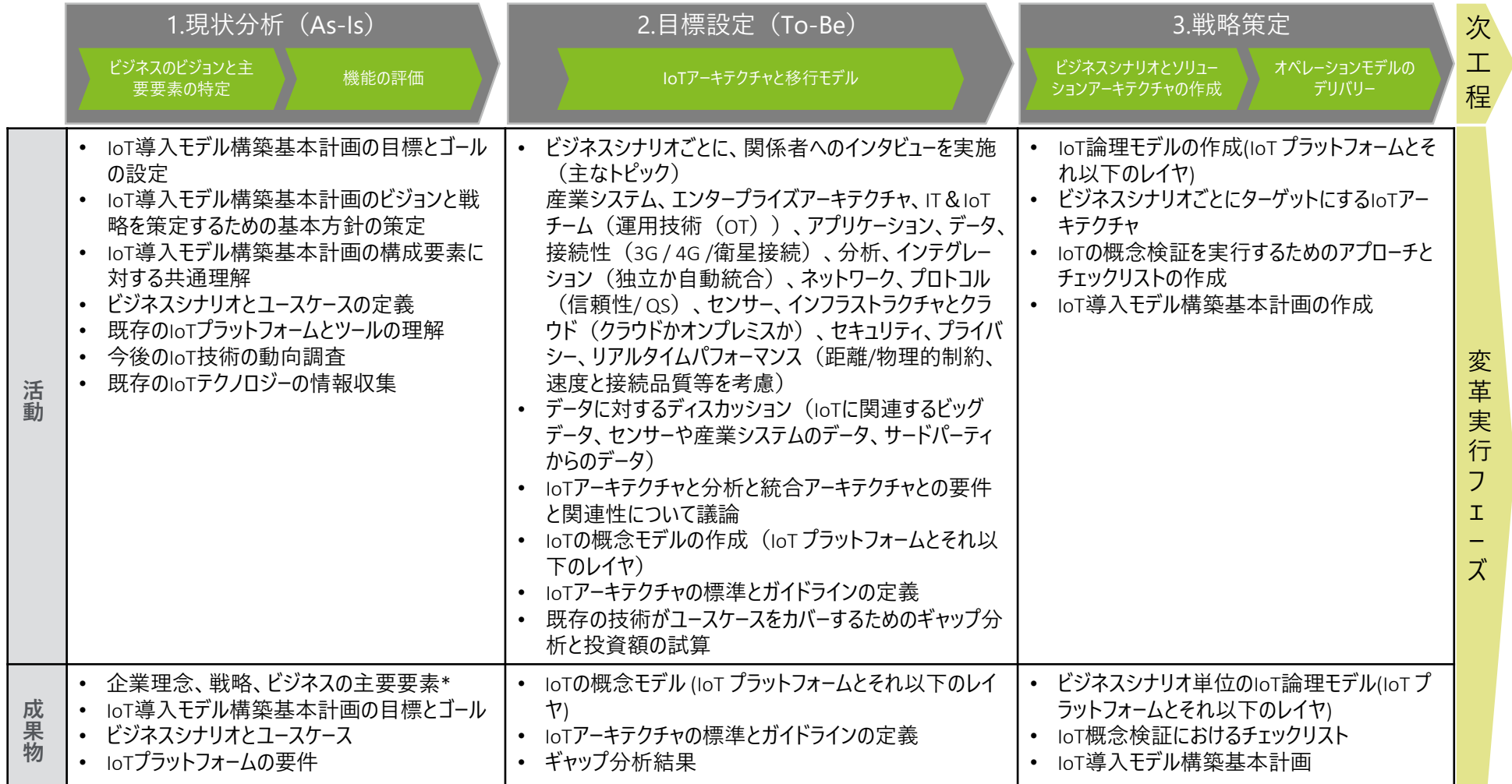
支援項目	内容
① 現状分析 (As-Is)	<ul style="list-style-type: none"> 企業／事業の属する市場、顧客の分析 上記市場において競合するプレイヤーの分析 その中での自社の立ち位置、強み／弱みの分析
② 目標設定 (To-Be)	<ul style="list-style-type: none"> IoT利活用によって変革したいこと、実現したいこと（売上成長、コスト削減等）の定義及びKPI設定
③ 戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> IoT施策オプション／シナリオの検討 ビジネスケースの作成 ロードマップの作成 組織、技術アーキテクチャ、業務プロセスの設計

変革支援

支援項目	内容
a 組織設計・構築	<ul style="list-style-type: none"> 施策実行に必要な組織・ケイパビリティの設計 新組織立上げ支援（ファシリテーション、課題管理・フィードバック等）
b 業務プロセス設計・運用	<ul style="list-style-type: none"> 施策実行に必要な業務プロセスの設計 業務プロセス運用支援（ハンズオンサポート、ツール作成、課題管理・フィードバック等）
c 技術設計・導入	<ul style="list-style-type: none"> IoTアーキテクチャ詳細化、システム要件定義 ベンダー／ソリューション調査・評価 PoC実行支援（ファシリテーション、進捗管理、レポート作成等）

戦略立案フェーズは、最初にアセスメントを行い、アーキテクチャと移行モデルを計画し、IoT導入モデル構築基本計画を作成する

戦略立案アプローチ



デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のビジネス プロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市以上に1万名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト（www.deloitte.com/jp）をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファームおよびそれらの関係法人のひとつまたは複数指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバー ファームおよびそれらの関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTLはクライアントへのサービス提供を行いません。詳細はwww.deloitte.com/jp/aboutをご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドはDTTLのメンバー ファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務およびこれらに関連するプロフェッショナル サービスの分野で世界最大級の規模を有し、150を超える国・地域にわたるメンバー ファームや関係法人のグローバル ネットワーク（総称して“デロイト ネットワーク”）を通じ Fortune Global 500®の8割の企業に対してサービスを提供しています。“Making an impact that matters”を自らの使命とするデロイトの約312,000名の専門家については、（www.deloitte.com）をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、その性質上、特定の個人や事業体に具体的に適用される個別の事情に対応するものではありません。また、本資料の作成または発行後に、関連する制度その他の適用の前提となる状況について、変動を生じる可能性もあります。個別の事案に適用するためには、当該時点で有効とされる内容により結論等を異にする可能性があることをご留意いただき、本資料の記載のみに依拠して意思決定・行動をされることなく、適用に関する具体的事案をもとに適切な専門家にご相談ください。

